

岐阜県高山市（焼岳）における活動報告

火山防災エキスパート	杉本 伸一 氏（雲仙岳災害記念館館長） 大野 宏之 氏（一般社団法人全国治水砂防協会理事長）
申請団体	岐阜県高山市 上宝支所
活動日	令和7年11月19日（水）
活動場所	高山市立北稜中学校 ほか
活動した取組名	焼岳火山防災避難訓練
参加者	県・市町村火山防災行政担当職員、各機関 地域住民、奥飛騨温泉郷連合町内会 9町内 参加人数 約200名
活動の概要	焼岳の噴火警戒レベル引上げを想定した訓練が実施された。 本訓練において、火山防災エキスパートとして、訓練を視察（現地災害対策本部、一時避難所、火山灰清掃を想定した放水、避難所体験）し、閉会式にて参加者に対して講評を述べた。 また、関係機関等との意見交換会を実施し、過去の経験事例等を踏まえた助言・情報共有を行った。

【派遣活動の背景】

高山市は内閣府が指定した火山災害警戒地域であり、今回防災訓練を行う奥飛騨温泉郷は活火山である焼岳の麓に位置しており、毎年火山災害を想定した避難訓練を実施している。

昨年度から焼岳が噴火した際の避難所に各自で移動する、避難行動と誘導を主とした避難訓練に変更した。

高山市は温泉観光を主とした観光地であるため、観光業従事者の負担増にならないよう配慮した訓練を目指している。そのため、令和6年度は土曜日に実施していたが、令和7年度は平日の水曜日に実施することとした。

訓練では、噴火警戒レベルが上がった場合を想定して、住民や関係団体が自分たちの役割を確認し、実際の避難場所へ安全に避難することをねらいとしている。

【訓練概要】

噴火発生により焼岳の噴火警戒レベル1が3から4へ引き上げられたことを想定の上、以下の内容が実施された。

- 高山市主催訓練
 - ✓ 避難経路確認訓練：災害時要支援者の避難訓練、住民が一時避難所へ集合の後、指定避難所への避難訓練
 - ✓ 避難情報伝達訓練：行政無線、安全安心メール、結ネット、町内会や消防団車両等の避難指示の伝達確認
 - ✓ 車両避難訓練：自家用車、バスの動き方・誘導方法の確認、消防団の車両誘導員配置・無線連携、信号交差点での警察官による交通誘導、道路規制箇所・規

制実施機関の確認

- ✓ 降灰への対応訓練：視界不良時の避難訓練、車両の降灰除去訓練
 - ✓ 安否確認訓練：登山届による登山者の確認、避難先での名簿確認、家族との連絡方法の確認、地域・学校・職場等の安否確認
 - ✓ 避難所生活体験・避難所運営訓練：段ボールベッド・簡易トイレ等の設置体験
- 関係機関による連携訓練
- ✓ 自衛隊との連携による登山客の救出訓練：噴石到達の可能性のある場所にいる登山者の救出を、自衛隊から消防隊へ引き渡す訓練
 - ✓ 防災航空隊による住民救出訓練：逃げ遅れた住民をヘリコプターにて救出と搬送を行い、消防隊へ引き継ぐ訓練
 - ✓ 関係機関の緊急連絡・連携訓練：消防、警察、自衛隊、自治体などとの連携訓練、災害対策本部の設置と訓練、奥飛騨温泉郷観光協会との宿泊客の状況確認
 - ✓ 防災関係のパネル展示・資器材等の見学
- 訓練終了後には、市及び関係機関と火山防災エキスパートによる意見交換会が実施され、住民避難等に関する議論・情報共有がなされた。

【訓練の様子】



車両の降灰除去訓練



現地災害対策本部会議 訓練



防災すごろくの様子



一時避難所の様子

【閉会式の概要(講評)】

訓練後の閉会式において、火山防災エキスパートから本日の防災避難訓練への講評を述べた。概要は以下のとおり。

● 杉本氏

- ・火山防災避難訓練は、毎年実施することが大切であり、そこから課題抽出し進化していくことが重要。
- ・今年度は中学生の参加があり、避難所の設置と運営に大きな力を発揮した。助けられる人から助ける人になってほしい。

● 大野氏

- ・訓練実施に、多くの関係機関、住民、学校などが参加することは、有事の時に災害対応をする人同士の顔が見えて非常に良い。
- ・展示物も防災すごろくなど工夫があり良かった、今後は動画も流すと良いと思う。
- ・訓練は良い環境で実施できるが、実際の災害は大雪や夜中などの最悪の環境で発生することも想定し、訓練時に難航した訓練は、有事の時も難航することが多いので肝に銘じて取り組んでほしい。

【意見交換会の概要】

火山防災エキスパートから閉会式における講評に加え、関係機関等との意見交換の中で情報共有等が実施された。概要は以下のとおり。

● 杉本氏からの講評

- ・令和5年から3年連続で焼岳火山防災避難訓練に参加している。年々訓練内容が工夫されており、全国のモデルケースとなるよう期待する。
- ・今年の訓練の新たな取り組みは、平日に実際の避難場所での実施と地元の中学生の参加があった。中学生達は避難所に設置するベッドを短時間で組み立てることができ、子供の力や可能性を感じた。
- ・地域住民の防災訓練への参加行動と、防災意識への思いが年々高まっているのを感じる。一方で住民の防災意識への高まりの継続と毎年訓練を実施する継続することが今後の大きな課題と思う。
- ・防災ヘリコプターは天候次第で運用ができないなど、繰り返し訓練を実施する中で、様々な課題が出てくるので次に活かしてほしい。実際の災害時では訓練内容の実効性の課題は多いと感じる。

● 大野氏からの講評

- ・活動火山対策特別措置法が改正され、火山防災対応は気象庁や各関係機関が連携して行うことがより高まった。
- ・火山活動は予測が難しく、噴火により地形が変わり泥流の流域も変化するので、気象台の発表するデータを専門家等が整理・共有し、全体で連携した対応を進めるのが重要。
- ・火山防災対応は多くの機関と連携しながら迅速な対策を講じる必要がある。火山ハザードマップのシミュレーション計算は、今回の訓練に参加をしていない国土交通省が行うため、今後シナ

リオに入れ一緒に訓練ができると良い。

- ・広範囲で一本道の避難は、車での避難となる。要配慮者、インバウンドの方々の対応は課題である。
- ・一時避難所が火口に近い広場などの場合は、降灰や噴石があるかもしれないので屋根のある公民館などが良いと思う。

● 意見交換

■ 火山灰への対応

降灰を想定した対応は必要か。

→降灰は火砕流より発生頻度が高く、交通規制が必要となるため行政機関が関わることとなる。降灰を想定した防災訓練は重要であり、ヘルメットの他にゴーグル等の準備物も必要である。（大野氏）

→新燃岳の噴火では、上下水道が降灰により濁りや詰まり等の影響が出た。（杉本氏）

■ 火山防災に関する普及啓発

VRによる噴火の体験は住民の危機意識が高まる、一般向けの用意があるか。

→富士山噴火により溶岩流が流れる等のCG、VR、YouTube等はある。実際の噴火映像は海外でもある。（大野氏）

→雲仙岳災害記念館では、雲仙普賢岳噴火時の定点からの火砕流を360度映像で再現し、モニターで体験が出来る。VR機器は年齢制限があるため使用の際は検討が必要と思う。（杉本氏）

→普及について岐阜県下呂市では、大学の先生が夏休みに小学生など子供向けに勉強会、実験を行った。中学生にもぜひ広めたい。（杉本氏）

【意見交換会の様子】

